

護衛艦「まや」

- 我が国最新のイージス護衛艦 -

The state-of-the-art Aegis Destroyer in Japan JS “MAYA”



艦船事業本部 横浜事業所

1. はじめに

本艦は、「あたご」型護衛艦（DDG）の性能を向上させた「まや」型護衛艦（DDG）の1番艦で、2020年3月19日に就役、海上自衛隊に引き渡された。本艦の主な特徴を紹介する。

2. 本艦の特徴

「はたかぜ」型護衛艦（DDG）の代替として平成27年度に計画、建造された海上自衛隊で7隻目のイージス戦闘システム搭載護衛艦である。艦名は神戸市の六甲山地に位置する摩耶山に由来している。

なお、当社で建造中の2番艦の「はぐろ」は2021年3月に就役予定である。

2.1 船体

「あたご」型護衛艦の船体を基に全長を5m延長している。また、上部構造も「あたご」型よりも船体中央部付近を拡張したほか、舷側ブルワーク構造を追加して艤装品を外部から遮へいするとともに、煙突内筒も短縮して遮へいすることによってRCS^(*)を低減させて更なるステルス向上を図っている。

2.2 推進システム

左右独立のそれぞれの推進軸はガスタービン主機、推進電動機、減速装置、可変ピッチプロペラ（CPP）の各1基によって構成されており、電気推進と機械推進を組み合わせたハイブリッド推進（COGLAG^(*)）を採用している。これによって燃費を向上させるとともに、ライフサイクルコストの低減を図っている。

2.3 武器システム

最新イージス戦闘システムを搭載し、弾道ミサイル防衛と対空戦が同時遂行可能な統合防空戦能力及び共同交戦能力を有し、弾道ミサイル対処及び防空任務を遂行するほか、護衛艦として水上艦船攻撃、対潜捜索攻撃、水陸両用戦での対地攻撃・敵上陸部隊攻撃能力を有する。

本艦のイージス戦闘システムでは、SM-3ブロックII A（弾道弾迎撃ミサイル）の運用を可能とすることに加え、新たに共同交戦能力（CEC）を装備するとともに、シースキマーミサイルへの対応能力の向上のため、対水上レーダ（SPQ-9B）を装備している。

その他の主要兵装としては62口径5インチ砲、高性能20mm機関砲、ミサイル垂直発射装置、SSM発射装置、3連装短魚雷発射管を装備している。

艦内には光ファイバを使用した高速大容量の艦内統合ネットワークを装備し、各種戦術情報の円滑な伝達を実現している。

2.4 航空機運用システム

「あたご」型護衛艦と同様、船体後部に格納庫と飛行甲板を持ち、1機の哨戒ヘリコプタの発着艦と格納が可能である。さらに格納庫内クレーン、関連支援区画の設備等を備えることで汎用護衛艦と同等の整備作業を可能とし、航空機運用能力の強化を図っている。

表1 「まや」主要目

Table 1 JS “MAYA” Principal particular

全 長	170.0 m
最大幅	21.0 m
型 深	12.0 m
基準排水量	8,200 t
乗 員	約 300 名
主機関形式・出力	COGLAG 69,000 馬力
推進器	CPP 2 基

*1 : Radar Cross Section

*2 : COmbined Gas turbine eLectric And Gas turbine